

「奈良県立医科大学の将来像」

の策定に向けて

(中間取りまとめ)



公立大学法人
奈良県立医科大学
Nara Medical University

目次

理事長挨拶 1

「奈良県立医科大学の将来像」
策定の考え方と構成 3

奈良県立医科大学の
シンボルマークと「建学の精神」..... 5

理念と方針

教 育 6

研 究 7

診 療 8

奈良県立医科大学の 将来像を策定します

本学教職員・学生の皆様におかれては、既にご承知のことと存じますが、本学は、第2期中期計画にも掲げているとおり、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を図るといふ、新しい奈良県立医科大学づくりの機会を迎えています。

この創立以来の大転機を迎える本学を取り巻く環境は、今、大きな変化を遂げようとしています。

教育・研究面では、国による大学の選別が着々と進められるなど試練が与えられる一方で、地方創生の拠点という大学の新たな役割が期待されるようになっていきます。その中で、各大学はその存在意義を自ら構築し、生き残りを図る必要があります。

また、医療面では、既に超高齢社会の時代を迎え、医科大学、大学附属病院へのニーズは、医療人の供給、先端医療の提供にとどまらず、疾病構造の変化に対応した在宅医療への関与や健康づくりへの貢献など多様化しており、これらに的確かつ迅速に対応していくことが求められています。

本学は、創立70周年の節目に与えられた新しい大学・附属病院づくりの機会に、単に施設整備だけでなく、本学がこれら環境の変化に適応しつつ、存在感をもって次世紀に向かって生き残り、飛躍を遂げるための基礎づくりを行いたいと考えています。

そこで、この機に、数十年先を見据えた本学の将来像を定め、これを未来に向かっての着実な歩み、大きな飛躍を期する道標にすることといたしました。将来像の策定に向け、現在、役員等と設立団体奈良県とが密に意見交換しながら、本学のあるべき姿や目指すべき方向について検討を進めているところですが、その完成には、法人を構成する皆様全員の知恵と見識を結集することが不可欠であると考えています。

6月10日までに中間取りまとめに ご意見をお寄せください ※

将来像は、第2期中期計画策定時の考え方を踏襲し、「教育」・「研究」・「診療」・「まちづくり」・「法人運営」の5分野から構成することを想定しています。今般、このうち「教育」・「研究」・「診療」に関して素案を取りまとめましたので、『中間取りまとめ案』としてここに紹介し、皆様のご意見を頂戴したいと思います。

いただいたご意見は、将来像成案の策定に向けて大いに参考にさせていただき、有意義な提案は積極的に取り入れた上で、平成28年度末に「まちづくり」・「法人運営」を含む最終取りまとめを行う予定です。

全ての教職員と学生が共通の目標に向け一丸となって策定に関わっていただくことにより、将来像が真に意味のあるものになると考えておりますので、皆様には是非積極的にご意見をお寄せいただきますよう※重ねてお願いいたします。

※上記につきましては、教職員等に対して意見を照会した際の文言ですのでご注意ください。

中間取りまとめ案の構成

将来像は、3部で構成しています。

I 将来像策定の考え方と構成

まず、策定コンセプト、内容構成を紹介します。将来像の策定は、本学のUI（ユニバーシティ・アイデンティティ）確立の取組と位置付け、その前提となる環境の変化、UIの内容、その成果を紹介します。

II 建学の精神、分野別の理念と方針

将来像の内容として、「教育」・「研究」・「診療」の分野別に定める『理念』と『方針』を紹介しています。また、それらの総体を象徴的に表すものとして新たに定める『建学の精神』を紹介します。

III 分野別の方針に関する取組

各分野の『理念』と『方針』を定めるに当たり、取り上げ、検討した取組について紹介します。

公立大学法人奈良県立医科大学
理事長・学長 細井 裕司

「奈良県立医科大学の将来像」策定の考え方と構成

「奈良県立医科大学の将来像」の策定は、本学のUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)確立の取組です。昨今の本学を取り巻く様々な環境の変化と課題の顕在化に適応して、本学が生き残り、発展していくためには、本学のアイデンティティを改めて吟味して明確にし、それに向けて自らドラスティックに変わっていくことが求められています。それにより、本学の多様なステークホルダーとの間に実のある関係が築かれ、本学の存在価値が確立されます。

大学を取り巻く環境の変化と課題の顕在化

BACKGROUND

医学水準の高度化

- 優秀な人材確保
- 臨床教育の充実
- 卒後教育の強化
- 教育研究環境の整備
- キャリアパス構築

医療ニーズの変化

- 量から質への転換
- 医療機関の機能分化
- 診療報酬制度
- 医療従事者確保
- チーム医療体制

超高齢社会の進展

- 疾病構造の変化
- QOLの重視
- 地域包括ケア構築の必要
- 予防・リハビリの重要性
- 健康づくりへの貢献

地方創生の期待

- 研究成果の還元
- 産業創成への貢献
- まちづくりの核としての期待
- 地域交流の拠点
- 健康情報発信

大学の選別化

- 国の資源配分の差別化
- 経営基盤強化の必要
- 自助努力による財源確保の要請
- 大学連携
- 産学連携



教
理

豊かな人間性に基づいて科学的探究心を備え、域や海外の人々と優し最善の医療提供を実践志を持った医療人の育



研
究

理念

研究の成果を患者への最善の医療に活かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。

方針

- 効果的・効率的な研究体制の構築
- 大学を挙げて取り組む重点研究の推進
- 研究の外部評価の導入
- 研究推進体制の強化

方

- 「良き医療人育実践
- カリキュラム・評価の導入
- 教員の教育能
- 学習環境と教

まちづくり



「平成 28 年度中策定予定」

建学の精神

最高の医学と最善の医療をもって
地域の安心と社会の発展に貢献します

シンボルマーク
(今後、作成予定)

奈良県立医科大学の アイデンティティ(UI)

育

念

高い倫理観と旺盛な患者、医療関係者、地
い心で積極的に交流し、
し続けようとする強い意
成を目指します。

針

「教育プログラム」の

シラバスの外部

力の向上
育環境の充実



診療

理念

患者と心が通い合う人間味あふれる
医療人を育成し、地域との緊密な連
携のもとで奈良県民を守る最終ディ
フェンスラインとなり、安全で安心
できる最善の医療を提供します。

方針

- 奈良県民を守る「最終ディフェンスライ
ン」の実践
- 奈良県内基幹病院としての機能の充実と
医療機関との機能分担、緊密連携の推進
- 良き医療人の育成

法人運営



「平成 28 年度中策定予定」

OUTCOME

患者

最高・最善の医療による安心の提供

県民

健康社会実現の支援

高齢者

地域包括ケアモデルの支援

県内医療人

医療知識・スキルの向上

県内医療機関

適切な役割分担と緊密連携

連携機関

連携による資源の相互補完

企業

医学を基礎とする産業の創成

地域社会

MBT構想による安心のまちづくり

医学・医療界

最先端医学・医療の発信

良き医療人の輩出による貢献

地域の安心と社会の発展に貢献

奈良県立医科大学の シンボルマークと「建学の精神」

シンボルマーク

今後策定予定

シンボルマークの趣旨

建学の精神

最高の医学と最善の医療をもって
地域の安心と社会の発展に貢献します



理念

豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者、医療関係者、地域や海外の人々と優しい心で積極的に交流し、最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

方針

1 良き医療人育成プログラムの実践

人間性教育・倫理教育・医療安全教育を核とした、良き医療人の育成を図る本学独自のプログラムにより、医学科6年、看護学科4年の一貫教育を行います。

2 カリキュラム・シラバスの外部評価の導入

旺盛な科学的探究心が醸成され、生涯学習の態度を身に付けることができる魅力あるカリキュラムとシラバス作成のため、外部評価を含めたP D C A化と学生参加を進めます。

3 教員の教育能力の向上

F D研修の内容の充実と教員評価への反映や、授業評価制度の導入による授業法の改善により、教員の教育能力の向上を図り、教育の質を保証します。

4 学習環境と教育環境の充実

高い知識と優れた技能と地域貢献のマインドをもった、国際水準に対応する医療人の育成を図るために、学習環境と教育環境の一層の充実に取り組みます。



理念

研究の成果を患者への最善の医療に活かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。

方針

1 効果的・効率的な研究体制の構築

従来の各講座・領域ごとに行う専門分野の研究に加え、講座の枠組みを超えて横断的に行う研究や、大学としてテーマを設定し重点的に行う研究に取り組みます。

2 大学を挙げて取り組む重点研究の推進

地域のニーズに応える「地域に身近な研究」のほか、「最先端の研究」「医育研究」の3つのカテゴリで研究テーマを選定して、大学を挙げて重点的に取り組み、その成果を還元します。

3 研究の外部評価の導入

研究の計画、実施、結果の各段階で、学外の有識者等で構成された外部評価委員会による評価を受け、研究内容・方法の妥当性と成果評価の客観性を担保します。

4 研究推進体制の強化

共同研究の推進、臨床研究支援体制の強化、若手研究者・女性研究者の支援、看護師・メディカルスタッフによる研究の推進など、研究推進体制の強化により、本学の研究水準の底上げを図ります。



理念

患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとなり、安全で安心できる最善の医療を提供します。

方針

1 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

ER救急の整備やドクターヘリの活用等により救急医療体制を強化するとともに、奈良県内唯一の大学附属病院本院として高度医療・先端医療を推進し、災害時には奈良県拠点病院として機能を発揮することにより、奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」として、地域の安心の確保に貢献します。

2 奈良県内基幹病院としての機能の充実と医療機関との機能分担、緊密連携の推進

5 疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患）に着実に対応するとともに、南奈良総合医療センターをはじめとする地域医療機関との適切な役割分担、緊密な連携により、奈良県内基幹病院としての役割を果たしていきます。

3 良き医療人の育成

附属病院における卒後教育を通じて、超高齢社会に対応する地域包括ケアシステムをはじめとする各領域の担い手となる医療人を育成し、地域医療の向上に貢献します。